|  |
| --- |
| 東広島市立志和中学校  「和文化学習の創造」～心技体一致の学び～  　　　　　　　　　HP:http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/shiwa-chu/ |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　清水　秀宣

１．本校の概要

　志和中学校は、創立６８年の伝統ある学校である。学校教育目標を『夢と志を持ち、果敢に挑戦し、自己実現する生徒の育成』とし、「和文化学習」をはじめとした体験活動等の充実を図り、豊かな心と健やかな体を育んでいる。また、言語活動の充実により授業力の向上を図り、確かな学力を育んでいる。全校１４６名の生徒たちは、自然豊かな環境の中で、素直に純粋に育ち、学習や部活動に熱心に取り組んでいる。

２．研究の概要

　本校の取組とＥＳＤの推進との関連

□研究主題　「主体的に表現する子どもの育成を図る指導の工夫」

　　　　　　～和文化学習を基盤に協同的な学び合い活動の充実を通して～

□ＥＳＤを通して生徒に身に付けさせたい力

　○多面的・総合的に考えることができる。

　○相手を尊重しながら、協同的に課題を解決することができる。

　○主体的に行動することができる。

３．実践内容

（１）武道（杖道）の実践

　本校では、保健体育科の武道必修化に伴い、武道として「杖道」を行なっている。（各学年12時間実施）

　杖道は、一般には馴染みが薄いが、約四百年の歴史を持つ日本古来の伝統文化であり、杖と太刀による形の武道で、未経験者でも比較的習得しやすい武道である。

【杖道を指導する場合の利点】

　○安全であり、特別な施設・設備や用具を必要としない。

　○運動を苦手とする生徒にも受け入れやすく、実際に取り組んでみると、上達を実感しやすく、体育を苦手としている生徒には、苦手意識が払拭される。

　○男女共修が可能であるため、体育大会などで集団演技として扱えるという点からも、表現力の育成にもつながっている。

【杖道の効果】

　○礼儀、責任、誠実、忍耐などの精神が養われる。

　　（つながりを尊重する態度）

　○姿勢態度がよくなり、身体を強健にし、活動を敏活にする。

　　（進んで参加する態度）

　○判断力、決断力が養われ、自信を持って事にあたれるようになる。

　　（批判的に考える力）（多面的・総合的に考える力）

　○対人関係がよくなり、社会生活に必要な協調性が養われる。

　　（他者と協力する態度）（コミュニケーションを行なう力）

（２）和文化本物体験

　本校では、各教科や学校行事における、和文化本物体験により、日本の伝統や文化のよさや豊かさに気付き、その価値や意義を理解することで、自分が日本人であるというアイデンティティの確立につながっている。また、地域の人材を活用して取り組むことで、自分の生まれ育った、ふるさと志和に誇りと愛着を持つことにつながっている。

【和文化本物体験】

　○浴衣の着付　　○茶道　　○水墨画　　○居合道　　○筝　　○神楽　　○講談

　○俳句甲子園　　○書初め　　○百人一首　等

【和文化本物体験の効果】

　○他人を思いやる心、礼儀、集中力が養われる。

　　（批判的に考える力）（他者と協力する態度）（コミュニケーションを行なう力）

　○自国の文化を大切にする心を養うことで、他国の文化を尊重する心が養われる。

　　（つながりを尊重する態度）

　○郷土に誇りをもって語ることができる生徒が育成される。

　　（進んで参加する態度）（多面的・総合的に考える力）

　○グローバル社会で活躍できる生徒が育成される。

　　（未来像を予測して計画を立てる力）

（３）志和しぐさの実践

　本校では、生徒会活動の１つとして、「志和しぐさ」の実践に取り組んでいる。

　「志和しぐさ」は、「江戸しぐさ」に倣って、学校生活をより良くするため、生活に取り入れていきたい行動について検討し、各学級から出されたアイデアを集約し、８つの「志和しぐさ」としてまとめたものである。そして、この「志和しぐさ」を、生徒会執行部が生徒朝会の場で寸劇を披露することを通して学校生活への浸透を図っている。

【志和しぐさ】

　①笑顔あいさつ　　②授業切り替え３秒しぐさ　　③スリッパ直しぐさ　　④思いやり会話

　⑤うかつあやまり　　⑥立ち止まりあいさつ　　⑦横断小走り　　⑧ふた声あいさつ

【志和しぐさの効果】

　○授業や行事に主体的に参加しようとする態度が育成される。

　　（進んで参加する態度）

　○相手を尊重する態度が養われる。

　　（つながりを尊重する態度）

　○社会で必要な協調性やコミュニケーション能力が養われる。

　　（他者と協力する態度）（コミュニケーションを行なう力）

４．成果と課題

○和文化学習を進めていくことで、礼節や思いやりといった他者への心配りが自然にできる態度を養うことになっており、日本人としてのアイデンティティの確立につながり、ＥＳＤの考え方の基盤となっている。

○ＥＳＤの視点に立った学習指導で、重視する能力・態度と、本校で取り組んでいる和文化本物体験のねらいを比較整理し、さらに工夫改善を加えながら、和文化学習を進めていく必要がある。